



環境を守ること。それはくらしを守ること。

2017 環境報告書

コープこうべエコレポート

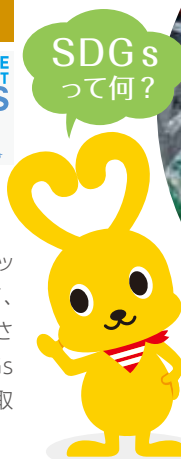
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs (持続可能な開発目標) とは…

2015年9月、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する、持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。そこに盛り込まれているのが、世界を変えるための17の目標「SDGs (エスディージーズ)」です。途上国も先進国も含めた世界中の一人ひとりに関わる取り組みで、2016年1月から実施が始まっています。



コープこうべ
キャラクター
コーピー

地球温暖化防止と再生可能エネルギー

地球温暖化、原発事故後のエネルギー問題に対して、省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの普及・拡大に取り組みました。

1 再生可能エネルギーの普及



石油・石炭などの化石燃料は限りがあるエネルギー資源です。これに対し、**太陽光や風力、水力、バイオマス、地熱などのエネルギー源は、一度利用しても比較的短期間に再生産が可能で資源が枯渇しない「再生可能エネルギー（以下、再エネ）」**です。これらは発電時にCO₂を排出せず、化石燃料に代わるクリーンなエネルギーとして期待されています。

太陽光発電所を拡大

コープこうべグループでは、再エネの普及を目的に、兵庫県と大阪府に太陽光パネルを設置し、太陽光発電を推進してきました。2017年3月末現在、合計**18か所**（年間で一般家庭1,974軒分の発電量）の**太陽光発電所が稼働**しています。



水上発電所（兵庫県丹波市）

再エネ電力をコープの施設で利用

コープこうべは、2015年4月から（株）コープ環境サービスの太陽光発電や他社発電所の電力（いずれも再エネの電力）を調達し、コープこうべの施設に供給する取り組みを開始しています。

2016年4月からは再エネ電力の調達量を拡大し、**供給事業所は88施設にまで拡大**。2016年度の再エネ比率は**54%**（コープこうべが調達した全電力に占める再エネ電力の割合）。これは、日本の再エネ発電率12.2%を大きく上回ります。

再エネ電力を調達し自ら利用する取り組みを通じて、再エネのさらなる普及につなげていきます。

組合員への電力小売事業を開始

2016年4月、一般家庭への電力小売が自由化され、生協も組合員に電気を供給することが可能となりました。同時に、消費者は、価格やサービス内容、電源構成などの情報をもとに自分の好みに合った電力会社を選ぶようになりました。

一方、将来のエネルギー問題や地球温暖化などの環境問題に不安を感じる消費者を中心に、太陽光、風力、バイオマスなどの再エネからつくった電気や、より環境負荷の小さい電源からつくった電気を選択したいというニーズが高まっています。組合員を対象にしたアンケート調査でも、こうした選択肢の提供をコープこうべに期待する声を多数頂いています。

このような背景をうけ、コープこうべは、再エネ電力を含む「**コープでんき**」を組合員に供給する電力小売事業を**2017年4月に開始**。2017年1月よりコープこうべの宅配をご利用の組合員を中心にお申込み受付開始し、**3月末までに約13,500世帯にご加入を頂きました**。

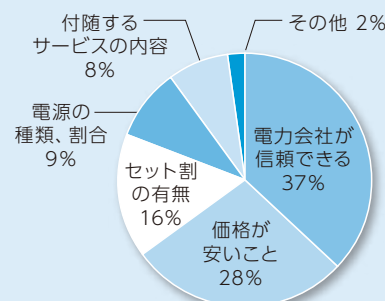


電力自由化に関する組合員アンケート

- コープこうべのインターネット会員（約10万件）を対象に、2016年3月にアンケート調査を実施（有効回答は1,995件）。
- 78%の組合員が電力会社の切り替えを検討。電力会社に求めるものは、信頼性と価格など。
- コープこうべに求めるものとして自由記述欄では、再エネ電力の供給への期待が多く寄せられました。



電力会社を選ぶとき、もっとも重要だと思うことを1つ選んでください。



- ▶「電力会社が信頼できること」が電力会社を選ぶ基準の37%を占めている
- ▶価格やセット割の期待も高い

組合員の声

コープこうべが再生可能エネルギーによる電力事業をおこなうのであれば、**すぐに乗り換えたい**。早く事業化してほしい。

再生可能エネルギーの発電を望みます。また、そんな発電でできた電気を購入したいです。

コープこうべで設置した**太陽光パネル**で発電した電気を、今はお店などで利用しているそうですが、将来各家庭に供給できるようになった場合、切り替えを考えてもよい。

電源の種類に、今後もこだわりたい。

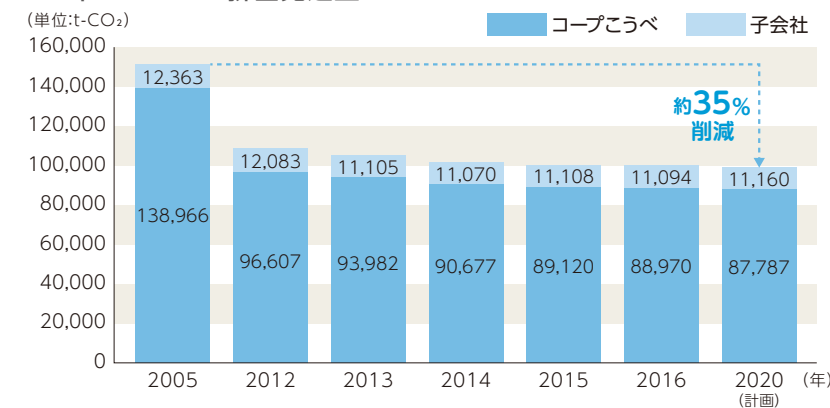
2 CO₂削減と省エネ



2020年までの長期的なCO₂削減計画

2020年までにCO₂排出量を約35%削減（2005年度対比）する長期計画のもと、計画的に設備更新をすすめています。最もCO₂排出量の多い店舗事業では、改装時にあわせ、冷蔵冷凍ケース・空調機・照明などを順次省エネ対応機種へ入れ替えています。宅配事業では、訪問コースの効率化や商品のお届け間違い削減を通じ、走行距離・車両燃料の削減に努めています。

2020年までのCO₂排出見込量



ノンフロン冷媒の導入

冷蔵冷凍機器や空調機の冷媒に使用するフロンガスには、オゾン層を破壊する影響のある「指定フロン」と、温暖化影響がCO₂の数千倍ある「代替フロン」があり、いずれも大気中に漏えいすると多大な環境影響があります。

コープこうべでは、指定フロン使用機

器に関し、**2020年を目途に代替フロン使用機器への入れ替えをすすめています**。また、フロンガスの漏えい防止のため、年4回以上の点検を実施。あわせて、フロンガスを使用しない**ノンフロンの冷蔵冷凍機器**を、新設の協同購入センター西神戸に導入しました。

指定フロン
オゾン層破壊
影響あり

代替フロン
オゾン層破壊
影響なし・
温暖化影響大

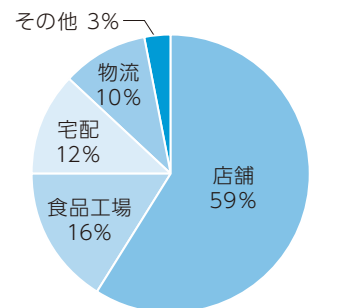
ノンフロン冷媒 (CO₂など)
オゾン層破壊
影響なし・
温暖化影響小

エネルギー学習の取り組み

組合員と共に地球温暖化やエネルギー問題などの「コンセントの向こう側」にある社会的課題を考える学習会を始め、省エネ学習、子ども向けイベント、太陽光発電施設の見学などを2016年度は48回開催し、のべ1,068人が参加しました。そのなかで、エネルギーの生産現場を学ぶため、9月26日に奈良県東吉野にある小水力発電施設の見学会（写真）や、11月16日には学習会「私たちの電気を選ぼう」（講師：NPO法人気候ネットワーク豊田陽介氏）などを開催しました。



事業所内のCO₂排出割合



改装した店舗（コープ西神）では省エネ機器を積極的に採用

電気自動車の導入

住吉事務所と協同学苑に電気自動車計5台を導入しました。走行中のCO₂排出量が低いだけでなく、災害時には非常用の電源として使用することも可能です。



電気自動車と充電スタンド

プチエネ学習キット

「再生可能エネルギーとはどういったもの?」「家電の省エネのコツは?」身近なものからエネルギーの最初の歩を楽しく体験できる学習教材を作成しました。



資源循環型の暮らし

事業活動から発生する食 品廃棄物や、暮らしの中から発生する容器、包装材などの発生 抑制と有効活用に取り組みました。

1 食品ロスの発生抑制と食品リサイクルの推進

環境共生型農園 エコファーム

堆肥化施設コープ土づくりセンターと、隣接する(有)みずほ協同農園からなるエコファーム(三木市)では、**コープこうべの37店舗の野菜・肉の加工くずを回収・堆肥化**し、その堆肥で育てた野菜を再び店舗などで供給しています。

エコファームのしくみ



■宅配返品商品のフードバンクへの提供

注文間違いなどでやむなく返品となった宅配のお届け商品の一部を、NPO法人フードバンク関西(芦屋市)へ提供しています。フードバンクで集められた食品は、食支援を必要とする人に無償で提供され、食品ロスの削減だけではなく、貧困問題の解決にも一助となっています。

また、新たな取り組みとして、家庭の余剰食品を持ち寄ってフードバンクに提供する「フードドライブ」を神戸市と連携し、3店舗で実施しました。



神戸版「フードドライブ」モデル実施をスタート

「こども食堂」への提供

宅配は、1週間前にご注文いただいた分だけ商品をお届けするシステムのため、流通過程で食品ロスが発生しにくい形態です。しかし、やむなく発生した返品の一部は廃棄せず、フードバンクや地域のこども食堂に提供しています。



こども食堂への提供(協同購入センター東灘)



2 容器包装の削減とリサイクルの推進

店舗・宅配でのリサイクル品の回収

コープこうべでは、使用する容器をできるだけ減らすとともに、リサイクルのしくみが確立している品

2016年度の回収量	(単位:kg)
紙パック(店舗・宅配)	320,420
飲料缶(店舗)	258,441
発泡トレイ(店舗)	171,359
ペットボトル(店舗)	502,106
ペットボトルキャップ(店舗)	28,195
透明トレイ・卵パック(店舗)	116,975
卵パック(宅配)	38,302
商品カタログ「めーむ」(宅配)	6,614,308
商品配達用ポリ袋(宅配)	83,767

目について、店舗や宅配を通じて組合員から回収を行っています。

リサイクル活動が障がい者の就労を支援

店頭リサイクルで回収したペットボトルとペットボトルキャップは、子会社の就労支援A型事業所「(株)ゆうあいサポート」がプレス加工等を行い、リサイクル業者に売却することで、**障がい者の就労を支援**しています。



ペットボトルのプレス事業(株)ゆうあいサポート

3 マイバッグ運動

2016年度持参率 **86.9%**
レジ袋節約枚数 **7,290万枚**

マイバッグ運動は1970年代の第二次オイルショック時の物不足パニックの教訓から「買い物袋再利用運動」としてスタートし、組合員のみなさまとともに約40年間取り組みをすすめてきました。また、行政との連携も行っており、現在は18市3町とレジ袋削減に向けた協定を締結しています。

■兵庫県内の店舗の取り組み

兵庫県内の店舗では、1995年よりレジ袋1枚5円の有料化に取り組んでいます。代金は全額環境の取り組みに活用しています。

- ①コープの森・社家郷山、みんなの牧心プロジェクトなどの里山整備
- ②エコファームや「とれびち」&「とれしゃき」の取り組み
- ③地球温暖化防止に向けた、エネルギー学習

④容器包装のリサイクルに必要な費用の一部に充当



レジ袋代金を活用して行ったプログラム風景

■大阪府下の店舗の取り組み

大阪府下の店舗では、マイバッグをご持参の方にエコシールをお渡しし、エコシールを20枚集めると100円の割引券として使用できます。さらに環境や福祉活動に寄付することもできます。2016年度は環境分野では、15の小中学校にエコベンチをお届けし、また、福祉の分野では、7か所の福祉関連団体に必要な備品を寄贈しました。



エコベンチ(食品トレイの再生品)の設置には、コープこうべの「マイバッグ運動」の寄付金を活用しています

コープこうべのあゆみ

年度	主な取り組み
1978	●買い物袋再利用運動を開始 ●食品容器包装フィルムを増ぴからポリエチレンに変更
1981	●有リン洗剤の取り扱いを中止 ●せっけんキャンペーンを開始
1990	●コープの環境月間スタート ●環境統一マーク商品の供給を開始 ●牛乳パックリサイクルが本格的にスタート
1991	●買い物袋再利用運動から「買い物袋持参運動」に ●フードプラン第1号商品開発 ●飲料缶、トレイ、ペットボトルのリサイクル開始
1992	●公益信託「コープ環境基金」を設立
1995	●買い物袋持参運動を拡大して「マイバッグ運動」に
1996	●総代会特別決議として「環境憲章」を採択
1998	●コープ武庫之荘ISO14001取得 ●コープ土づくりセンター完成 ●(有)みずほ協同農園発足
1999	●エコファーム施設の完成 ●食品工場ISO14001取得
2000	●全事業活動でISO14001取得
2001	●第一次環境中期計画策定 ●エコファームを本格オープン
2003	●食品工場の廃棄物処理設備完成
2004	●第二次環境中期計画策定
2005	●ISO14001の環境マネジメントシステムを食品工場と統合 ●フードプラン管理規定の策定 ●食品工場のバイオマス利活用の取り組みが、兵庫県「ひょうごバイオマスecoモデル」第1号に認定
2007	●第三次環境中期計画策定 ●「マイバッグ運動」のステップアップ ～レジ袋のレジ精算、食品を扱う150店舗で実施 ●容器包装3R推進環境大臣賞最優秀賞受賞
2008	●兵庫県、西宮市と企業の森づくり協定締結 ●「コープの森・社家郷山」の取り組み開始
2010	●店舗で卵パック、透明トレイの回収スタート ●地産地消の取り組み強化「ひょうご発」商品開発
2011	●コープこうべ環境基金20周年のつどい開催
2012	●国際協同組合年記念事業「食と環境のシンポジウム」 「虹の仲間」で森づくり開催 ●住吉事務所が関西エコオフィス大賞「節電の励行部門賞」を受賞
2013	●鳴尾浜配送センターで太陽光発電を開始 ●アルミ付紙パックの回収開始
2014	●子会社の(株)ゆうあいサポートで店頭回収のペットボトルのプレス作業開始 ●ISO14001の認証を返上し、自主運用に切り替え ●子会社の(株)コープ環境サービスで、宅配の商品情報紙「めーむ」の圧縮作業を開始
2015	●再生可能エネルギーを利用する電力供給事業を開始(コープこうべの42事業所に電力供給) ●「おおさか環境賞」の準大賞を受賞 ●ペットボトルのキャップの回収開始 ●第3回 食と農林漁業の食育優良活動表彰「農林水産大臣賞(企業部門)」を受賞 ●コープの森・社家郷山が環境省「生物多様性保全上重要な里地里山」(500箇所)に選定 ●宅配返品商品のフードバンク関西への提供開始 ●みんなの牧心プロジェクトの取り組み開始
2016	●再生可能エネルギーを利用する電力供給事業所を拡大(コープこうべの88事業所に電力供給) ●子会社の(株)コープ環境サービスで、宅配の商品配達用ポリ袋の圧縮作業を開始
2017	●再生可能エネルギー電力を含む「コープでんき」を組合員に供給する電力小売事業を開始

くらしと環境をつなげて考える

1 エシカル消費

「エシカルとは誰かの笑顔につながるお買い物。」
「自分のため」はもちろん、「自分以外のため」…
そんな気持ちに支えられるエシカル消費。
これまでも、これからもコープこうべは4つの
視点をたいせつにします。

コープこうべの4つの視点

私たちがお買い物で…

公正な社会の仕組みが作り出せたら

社会インフラの改善や社会的公正の実現につながる

たとえば

- 働く場を作り、収入の安定や子どもの教育機会を創出
- 生産者の生活が成り立つように公正な価格で商品原料などを継続的に買い取り



フレンドリーバナナ

フェアトレード

フェアトレード コーヒーバッグ炭焼珈琲

●トイレットペーパーのコアノンシリーズの購入金額の一部をユニセフに寄付し、アンゴラ共和国の子どもたちが安心して学べる学校の環境づくりを支援



私たちがお買い物で…

地球環境を守り続けることができたなら

持続可能な社会づくりにつながる

たとえば

- 食べる人、作る人、作る環境に配慮した食べもの作り
- 限られた資源を有効にリサイクル商品



コアノン ロール 130 シングル

●商品価格の一部を寄付し、原料産地の環境を保全

太もぐ・糸もぐく サンゴの森づくりキャンペーン

FSC® 認証 MSC 認証 など

エシカルとは…

「倫理的」という意味です。エシカルなお買い物とは、地域や社会、環境や人々に配慮して、モノやサービスを購入することを言います。

私たちがお買い物で…

豊かな地域の仕組みが作り出せたら

地域の担い手や生産者の支援、被災地域復興などにつながる

たとえば

- 地元の食材を利用することで、一次産業を元気に
- 商品の購入を通じた被災地支援も

商品一例

岩手県田老の 芯付き 塩わかめ

神戸ハイカラ メロンパン募金 1個購入につき1円を被災地応援に

コープの産直・ひょうご発・「とれびち&とれしゃき」

私たちがお買い物で…

人々の「生きる」を支えることができたなら

くらしの問題の解決や 生きづらさを抱える 人々への支援につながる

たとえば

- コープこうべの夕食サポート『まいくる』1食あたり0.5円を、〔(公財)コープともしびボランティア 振興財団〕に寄付しています
- コープ化粧品シリーズの対象商品1品購入ごとに1円を、日本乳がんピンクリボン運動へ

対象商品の一例

J.POSH® フリーリア シリーズ

コープ基礎シリーズ

「買いものがくらしや社会を変える。」のことばどおり、私たちが何を選びとるかにより、それを生み出す産業や自然環境を次世代につなぐことができるかどうかが決まります。こうしたつながりの体験と学びを広げています。

2 生産と消費をつなげる ～とれびち&とれしゃき～

2014年度からコープこうべの全エリアで取り組んできた「とれびち」(ひょうご地魚推進プロジェクト)。これに加え、2016年度は地場野菜について学ぶ「とれしゃき」(兵庫地場野菜振興プロジェクト)についても、県内で出荷量の多い野菜を中心に、店内でミニ調理講習(普及活動)を行うなど、学びを本格化しました。価格、鮮度、見栄えなど消費者都合に偏

った食材選択をしがちですが、この取り組みを通じ、地元のものを食べ支えることの意味と必要性への理解を広めたいと考えています。

兵庫県漁業協同組合連合会、全国農業協同組合連合会・兵庫県本部などと連携し、2016年度は、店頭ミニ調理講習887回、料理会・学習会134回、産地体験20回を実施。合計46,570人が参加

しました。

また、古くから食べ継がれてきた食材とそれを育んできた気候・風土とのつながりに注目し、次世代に語り継ぐ資料「ひょうご～守り継ぎたい食のたいせつ～(冬～春)」を刊行しました。



3 里地・里山での体験学習を通じ 食べものやくらし方を考える

■コープの森・社家郷山

兵庫県「企業の森づくり制度」の第1号として、2008年度からスタートしたこの取り組みも、当初予定した10年間の区切りを間もなく迎えます。行政、学校、市民、事業者など、地域にある各主体が力を発揮し、社家郷山の生物多様性保全、そして生態系や資源の循環の学びや活動を継続できるよう準備をすすめています。

西宮市と共催する学習プログラム「遊ぼう屋」には、2016年度、バーベキューや焼き芋と学びをセットにしたプログラムを新設し、社家郷山に親しみを感じ、訪れてもらうきっかけづくりをしました。

■みんなの牧♥里プロジェクト

大阪北地区では、豊能町牧地区で「みんなの牧♥里プロジェクト」に取り組み、地域のこと、そして食べものと生産・環境

とのつながりの学習をすすめています。

2016年度からは、植付けや収穫だけでなく手入れも含め、野菜を育てる過程にも参加してもらう「チャレンジャー」プログラムをスタート。じゃがいも、玉ねぎとも各23組が参加。新たに、援農や竹林整備の「チャレンジャー」も始動しています。

また、コープくらぶ「とよの里山くらぶ」は、ここでできた野菜をイベント等で即売することを通じ、プロジェクトの取り組みや牧地区の魅力を伝え広めています。



じゃがいもチャレンジャーによる植付け

■環境共生型農園 エコファームでの学び

コープこうべの食品リサイクルとフードプランを中心とする野菜の生産を担うエコファームは、同時に、組合員、職員が食や農業について学習する場にもなっています。エコファームで楽しく時間を過ごし、野菜やその生産に興味をもってもらえるよう、学びのプログラムの見直しをすすめています。エコファーム産野菜を味わい、食べ方提案を行う「SOUP BAR」 「マイファーム講座」が徐々に定着しつつあります。



エコファーム産小松菜を使ったスープを提供

4 コープこうべ環境基金

兵庫県内で自然環境の保護や活用の実践活動および啓発活動、ならびに実証的調査・研究を行う団体の活動資金を助成する公益信託「コープこうべ環境基金」。

2016年度は、生物多様性の保全、希

少種・在来種復元、食べものと環境のつながりといった視点で活動を行う19団体に、総額257万円を助成。

また、6月には宅配と店舗で集中募金を行い、約253万円が集まり、基金に組み入れられました。



オミナエシの植栽 (兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会)

組合長理事 あいさつ

生活協同組合コープこうべ
組合長理事

木田 克也



2015年9月、国連で「持続可能な開発のための2030アジェンダ(SDGs)」が全会一致で採択され、世界全体で持続可能な社会の実現に向けて取り組むことが確認されました。SDGsは、地球温暖化などの環境分野だけでなく、貧困・飢餓、健康・福祉、教育・学習、エネルギー、雇用・働きがい、不平等是正、地域づくり・防災、責任ある生産と倫理的(エシカル)消費、平和と公正、協働など、持続可能性に関連するすべての分野が包含される新たな枠組みとして昨今急速に注目され、SDGsを意識した取り組みが世界全体で始まっています。

コープこうべは、これまで組合員の皆さんとともに持続可能な社会の実現に向け、環境問題をはじめ様々な取り組みをすすめてまいりました。取り組むテーマは時代時代に変化してきましたが、あらためて生協の事業や活動を振り返ってみると、このSDGsの枠組みと軌を一にする取り組みが数多くみられます。

本誌では、2016年度に取り組んだ地球温暖化防止と再生可能エネルギー普及の取り組み、暮らしと環境をつなげて考えるエシカル消費の取り組み、食品ロス削減やリサイクルなどの資源循環の取り組みについて概要を報告しています。また、これらの取り組みをあらためてSDGsの枠組みで捉えなおし整理しています。

組合員の皆さんと現在の到達点を共有し、様々なご意見やご提案もいただきながら、「未来づくりを組合員の力」ですすめていきたいと考えています。ともに取り組みをすすめてまいりましょう。

2017年7月

コープこうべ概要 (2017年3月31日現在)

名 称	生活協同組合コープこうべ
設 立	1921年(大正10年)
所 在 地	〒658-8555 神戸市東灘区住吉本町1丁目3番19号
出 資 金	369.2億円
供 給 高	2,389.7億円
生産事業高	87.0億円
組合員数	1,688,252人
組 織 率	50.2% ※活動エリア内世帯に占める組合員世帯の割合
活動エリア	兵庫県全域・京都府京丹後市・ 大阪府豊中市、箕面市、池田市、吹田市、茨木市、 高槻市、摂津市、能勢町、島本町、大阪市淀川3区
主な事業	組合員世帯を対象に、商品の生産・供給事業および 教育・学習を行い、生活文化の向上を図る事業など
総職員数	9,486人
事 業 所	住吉事務所/1か所 地区活動本部/8か所 店舗事業/161店舗 宅配事業/24事業所 食品工場/1か所 物流センター/7センター その他/49事業所

コープこうべ環境憲章

有史以来、私たちは自然界の恩恵を受け、自然との共生を図りながら生きてきました。しかしながら、今や私たち人間が環境に与える影響は極度に増大し、地球環境を大きく破壊しつつあります。これは人類の生存をも脅かす重大な問題です。

この地球は私たちが祖先から受け継いだものであると同時に、子孫から託されているかけがえのないものです。地球環境を守るためには、私たち一人ひとりが生活スタイルを見直すとともに、事業のあり方を変革し、行政・企業・消費者が力を合わせて環境保全型社会への転換を図っていくしかありません。

コープこうべは、暮らしを守るという生活協同組合の目的にそって、環境問題解決のために全力をつくすことを誓い、「コープこうべ環境憲章」を以下のとおり定めます。

基本理念

地球環境はすべての面で有限であり、私たち人間は其中で活動せざるをえません。コープこうべの組合員・職員の一人ひとりはそのことを認識し、限られた地球環境の中で自然と共生していくという思いを大切に持ち続けていきます。

創立以来、コープこうべは組合員の暮らしを守るための運動を展開してきました。今後さらに、環境問題を“暮らしのあり方、社会システムのあり方を問う意識変革の問題”と認識し、“健康・福祉・平和”を守る運動とともに、生協運動の根源的課題として、事業活動も含めて先進的な取り組みを積極的に展開していきます。

行動指針

生協は、消費者運動としての側面と同時に事業体としての側面をもっており、その両面で環境保全への取り組みを推進していきます。

コープこうべは以下の方針を基本として、組合員と職員が一緒になって考え、悩み、創造し、行動するとともに、環境保全活動や環境負荷に関する情報を公開していきます。

1. 暮らしの見直し運動をすすめ、環境保全型社会への転換を推進します。
2. 事業活動から発生する直接・間接の環境負荷の低減を推進します。

- ① 環境に配慮した事業体への転換を図ります。
- ② 環境に配慮した商品の開発・改善を図ります。

1996年5月31日

生活協同組合コープこうべ 第76期通常総代会

コープこうべの環境への取り組みはホームページで詳しくご紹介しています

<http://eco.coop-kobe.net/>

コープこうべの環境活動

検索

データ集 <http://www.kobe.coop.or.jp/ecoreport/index.html>



「生活協同組合コープこうべ 2017環境報告書」

編集・発行/生活協同組合コープこうべ 企画政策部 環境推進

TEL: 078-856-2068 FAX: 078-856-1700

<http://www.kobe.coop.or.jp/>

2017年7月発行